

2012年11月 話題広告賞

Vol.1
クリーンディーゼルQ&A

生まれ変わったディーゼル。 日本と世界の現状。

ディーゼルと聞くと、黒い煙。そんなイメージをお持ちではありませんか？
実は今のディーゼルは技術革新を経て、クリーンディーゼルとして大きく進化しています。
今回は3回連載でそのクリーンディーゼルの最新事情をご紹介します。



Q. 1990年代前半と比べるとディーゼルは、どれくらいクリーンになったの？

A. 現在の最新規制の排出ガス基準と1990年代前半の規制になるNOx(窒素酸化物)で**84%**削減、吸い込むと健康を害するPM(粒子状物質)で実に**97.5%**削減しています。平成20年に国土交通省が定めた最新の規制基準「**ポスト新長期規制**」は、ディーゼル先進国欧州の現行基準Euro5の規制レベルを上回る**世界最高水準の規制**になっており、乗用車についてはガソリンの規制値と同程度が求められる厳しい基準になりました。ディーゼルは、クリーンディーゼルとして生まれ変わったのです。

Q. では、ここ数年の間に革新的進化を遂げ、排出ガスが格段にクリーンになったディーゼル乗用車の国内販売シェアはどれくらいなの？

A. 0.1%未満。これだけ進化したにも関わらず、まだ1990年代の「汚い、うるさい、走らない」といったマイナスイメージが根強く残っているのです。
※1位車種：2011年自動車保有率調査(国土交通省発表)

Q. そんな日本ではまだ浸透が浅いディーゼル。環境先進国の多いヨーロッパではどうなの？

A. 実は、乗用車の**50%**がディーゼル車というほどの人気。環境性能が高い「運転性能に優れる」「経済性が高い」などの理由から支持されています。特に若い人たちの間では、価格が多少高くても**ドライブの気持ちよさ**を味わえるディーゼル車の魅力が浸透しています。だからこそ、高級車メーカーは、むしろディーゼル車を主力モデルに位置付けているのも事実です。ル・マン24時間レースでもダカールラリーでも、近年の優勝はディーゼル搭載車です。

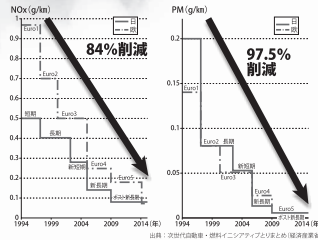
Q. 地球温暖化に関わるCO₂。ガソリンとディーゼル、走行時の排出量が少ないのはどちら？

A. ディーゼルです。ディーゼルエンジンは、ガソリンエンジンよりも燃料のエネルギーを効率よく使えるため、同じ距離をより少ない燃料で走れます。その分、ガソリン車に比べ、排出するCO₂の量も**約25%程度**少なく済みます。

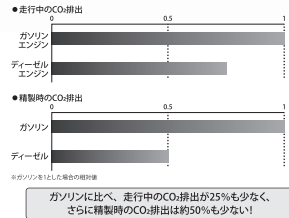
Q. ディーゼルはエンジンだけじゃなく、燃料そのものもエコなの？

A. はい、軽油とガソリンは同じ原油から精製されますが、だから軽油は精製時のCO₂排出量がガソリンの**約半分**。だから軽油は燃料そのものを作り出す際の環境への負担も軽いのです。しかし、そんな軽油を日本では使い切れておらず、実は年間1000万キロリットルも輸出をしています。環境を考えれば、選ばれるのは「軽油」なのです。

NOx(窒素酸化物)、PM(粒子状物質)の規制の遷移



ディーゼルとガソリンのCO₂排出量の差



今、クリーンディーゼルは
運転の楽しさ、
そして優れた環境面で
世界から注目されているのです。



甲信マツダ

本社 / 長野市中御所1-27-22
TEL:026-226-0294(代)

甲信マツダホームページ <http://www.koushin-mazda.co.jp/>

2012年10月25日付 10段

株式会社 甲信マツダ [広告会社 三広 / 制作 ビー・クス]

2012年11月 話題広告賞

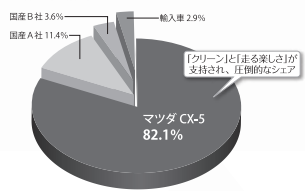
Vol.3 クリーンディーゼルのQ&A

生まれ変わったディーゼル。 クリーンディーゼルの 革命児 CX-5、 驚きの国内シェアとは

クリーンディーゼルQ&A。ディーゼルエンジンの優れた環境・動力・燃費性能が、今年発売のマツダCX-5の革新的技術を紹介してまいりました。まずはそのCX-5が驚くべき支持をあつめています。

においては、第1回で紹介した世界最高水準の規制「ポスト新長期規制」をクリアした車種には助成が適用され、CX-5であれば、最高18万円の*補助金が交付されます。
ハイブリッド、電気自動車など環境負荷を低減する自動車への関心が高まる中、CX-5はディーゼルという従来の技術をベースにしなが、**環境と経済性、走行性能の全てを満足させるクーリディー**に到達しました。
※2013年2月28日登録、3月7日申請分まで。

長野県内でのクリーンディーゼル補助金対象車種販売シェア



「クリーン」となる楽しさが支持され、圧倒的なシェア

Q. 驚くべきそのシェアとは?

A. 長野県内のクリーンディーゼル補助金対象車種販売シェア*が**82%**。1車種でこの数字、信じられますか?

Q. 支持されているポイントはどこ?

A. CX-5はエンジンの燃焼を徹底的に見直し、常・識外の低圧縮比**14.0**を実現しました。クリーンでありながら420N・m(42.8kgf・m)/2000rpmのビッグトルク。全ては「走る歓び」を心から味わっていただくため、想像を超えた気持ちの良さ、それが「**SKYACTIV TECHNOLOGY**」なのです。

Q. 政府もクリーンディーゼルの普及に力を入れているってほんと?

A. 政府は地球環境への負荷の少ないクリーンエネルギーの普及を推進すべく、「クリーンエネルギー自動車導入促進対策費補助金」として、電気自動車、プラグインハイブリッドとともに、CX-5を含むクリーンディーゼルに対しても自動車の導入に要する経費の一部を助成しています。ディーゼル車

地球も、あなたも、「気持ちよい」このクルマを今、選びませんか?



JAHFA
2012-2013
CAR TECHNOLOGY OF THE YEAR
日本自動車殿堂
カーテクノロジーオブザイヤー

日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー
NPD(日本自動車殿堂)主催の「2012-2013日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー」において、マツダが最も革新的な技術を開発した車種としてマツダCX-5の最新クリーンディーゼルエンジンに選ばれるという栄誉を授けられた。*2012年11月現在

甲信マツダ 本社 / 長野市中御所1-27-22 TEL:026-226-0294 (代) 甲信マツダホームページ <http://www.koushin-mazda.co.jp/>